



プロローグ

学習者の興味・関心から 学びをスタート

皆さん、こんにちは。ごきげんいかがでしょうか？

これより、『ファシリテーションを学校に！』というタイトルで、この本を始めていきたいと思えます。私は案内役の青木将幸と申します。どうぞよろしくお願ひします。

まずは、ちよつと長めに自己紹介させていただきます。

★ちよつと長めの自己紹介

青木将幸（あおきまさゆき）と申します。紀伊半島の南側「熊野」地方の出身です。

高校時代までの一八年間を、海青く、山青く、空青い熊野で過ごしました。大学のときに東京に出て、一八年間、東京で過ごすこととなります。大学では環境問題を専攻。学生時代から環境NGO活動に取り組みます。卒業後に、企画や編集・環境コミュニケーションなどを扱う会社に入って修行をつみ、二七歳のときに「青木将幸ファシリテーター事務所」を立ち上げました。三六歳のとき、東京から妻の実家のある淡路島に移住。大阪湾と瀬戸内海の間に浮かぶ国生み伝説のある島から、全国各地に出かける日々です。

私の仕事は、ミーティング・ファシリテーターとあって、会議や話し合い、ワークショップの進行役をすることです。毎日、いろんな地域や会社や組織に出かけていって、ヨソモノとして話し合いや会議を促進しています。企業や行政やNPOの会議を進行することもありますし、商店街や地域の住民会議のような場をお手伝いすることもあります。

小学校の職員会議や、生徒会の話し合いを手伝ったこともあります。小学校の職員会議は未知の世界で、とっても面白かったです。

今、私が住んでいる地域のある小学校の職員研修を継続的にお手伝いしているのですが、先生たちの話し合いのスタイルというか風習が、けっこう独特で、とても興味深い。組織が違えば、会議スタイルも違うんだなあと、興味津々でかかわっています。

というわけで、会議のファシリテーションがメインの仕事ですが、それに次いで「教える」仕事もけっこうあります。会議や話し合いの方法を教えたり、ファシリテーションの技術をお伝えしたり。山梨にある都留文科大学をはじめ、いくつかの大学で「ワークショップ論」や「ファシリテーション実習」といった講義を持っていて、大学生を相手に教壇にも立っています。

★自己紹介をすすめて、してもらったことが持つ意味

本の冒頭で、こんなふうになんとなく自己紹介しますと編集部にカットされ、「早く本論に入ってください」と促されがちです。でも、ここはあえて自己紹介させていただきました。それは、私の肩書きである「ミーティング・ファシリテーター」って聞き慣れないものでしょうし、何よりフ

アシリテーションを考えるうえで、自己紹介ってけっこう大事なことだと思っからです。

自己紹介を丁寧にするというのは、「その場にきちんと現れる」ということにつながります。「今、この場を聞き進めていくのは、こんな人ですよ。どうぞよろしく！」という意味をこめて、冒頭に丁寧な自己紹介を行うのは大切なことだと思います。

同時に、学習者一人一人のことをよく知るために、相手のことを教えてもらう時間も丁寧に必要があります。

これは、こちらが「伝えたいこと」「教えたいこと」も大事ですが、同様に「学ぶ側が知りたいこと」「学びたいこと」「今、気になっていること」も大事だと思うからです。

ですので、私は何かを学ぶ場（研修会や授業）を開くときは、参加する方々の言葉をお聞きしてから始めるようにしています。参加者の声を聞き、用意していた資料を配付せずに、内容を大きく変えることもたびたびあります。

なぜ、そんなことをするのでしょうか？

それは、「そうしたほうが、学びは深まる」と思うからです。

学習者の興味・関心から学びをスタートさせることは、一人一人の主体性を高めます。今、学ぼうとする方々が何に興味があって、何がわからなくて、どんなことを知りたくて、どういう段階にいるのか？ここをスタートに学びを開始すると、スムーズに展開することが多いのです。

深い学びを促進しようと思ったら、「教える側」が何かを手放さないといけないことがあります。おそらく、ここが大きな分岐点になるだろうと私は考えます。

もともとファシリテートという言葉は「容易にする」という意味の言葉です。「簡単にする」「〇

○しやすくする」という意味から、「促進する」といった意味合いを持つようになりました。

会議や話し合いでは、参加者の一人一人の発言を促し、相互交流を促進することがファシリテーターです。学習の場面では、一人一人の当事者性を引き出し、他者とのかわりの中で、より深い学びへといざなうようなかわりと考えていいでしょう。そういう意味では、教師はすでにファシリテーターとして機能している側面がたくさんあるように思います。

教育にかかわる人間の一人として、学習者一人一人がのびのびと学ぶことができ、互いに切磋琢磨できる場をつくれたらなあと思う日々です。

★ ワーク「私がファシリテートされたとき」

さて、ここでみなさんに質問です。

みなさん、自分が「おー、ぐんぐん学べているな」と感じた経験はおありでしょうか？

おそらく、多くの方は経験あるかと思います。

人生にはいろんな時期があります。伸び悩む時期や、学びが進まない時期もあります。逆に、ぐんぐん学びが進み、成長するタイムミングもあるはずですよ。

ここでは、後者にあたる「ぐんぐん学べている時期」をまず思い起こしてほしいと思います。

これは、「私がファシリテートされたとき」という題で行う、ワークです。自分自身がファシリテートされていたなという瞬間を思い起こすことを通じて、他者をファシリテートできるきっかけをつかむためのものです。